vinetur

ボナムズ、唯一無二の58年熟成スコッチウイスキーを競売へ　予想落札価格は2万～3万ポンド

House of Hazelwoodの限定ボトルは、スコットランド王ジェームズ6世とイングランド王ジェームズ1世にゆかりのあるデヴィッド・ラムゼイの時計に着想を得た

2026年11月18日（水）



ボナムズは11月18日（水）、唯一無二の58年熟成スコッチウイスキーを、11月19日（木）に始まるエディンバラの競売に出品すると発表した。この競売には、故デレク・マザー氏のコレクションを対象とする別の単独所有者オークションの第1弾も組み合わされている。

「The King's Measure」と名付けられたこのウイスキーは、House of Hazelwoodとの共同制作で、11月19日（木）から12月3日まで開催される「Spirits History: House of Hazelwood Exclusive Release, Casks & Treasures」競売の目玉となる。ボナムズは落札予想価格を2万～3万ポンドとしている。

競売会社によると、このボトルは今回の競売のために特別に造られたもので、スコットランド王ジェームズ6世とイングランド王ジェームズ1世にゆかりのある、デヴィッド・ラムゼイ作の歴史的に重要な懐中時計に着想を得ている。ボナムズはこの時計も別のオンライン競売に出品し、12月3日に入札を締め切る。予想落札価格は25万～35万ポンド。

このウイスキーは、ボナムズの酒類部門と時計部門の専門家による部門横断型の企画として紹介さ

れており、競売会社にとって同種の取り組みは初めてだ。ボナムズによれば、この限定ボトルはラムゼイの時計にまつわる物語を軸に、スコットランドのウイスキー造り、王室の歴史、装飾工芸を結びつけることを意図している。

出品されるのは、特注のプレゼンテーションキャビネットに収められた、700ミリリットル入りの58年熟成スコッチウイスキー。ボナムズによると、キャビネットにはモレイ伯爵の許可を得て、ドゥーン城の古木のオーク材が使われている。同社によれば、この木は16世紀以来、同地に立ち続けており、幼少期のジェームズ王に木陰を提供した可能性がある。

さらに、スペイサイドで最大6人が参加できるHouse of Hazelwoodのプライベート体験も含まれる。ボトルそのものに加え、特別な体験や来歴を求める傾向が強まる富裕層コレクターを意識した内容だ。

House of Hazelwoodの取締役、ジョナサン・ギブソン氏は、このウイスキーには時計がたどってきた長い歴史と、ジェームズ6世・1世に結びつく時代を反映させる意図があると述べた。ボナムズのスコットランド酒類部門責任者、パトリシア・ビオット氏は、熟成年数、希少性、強い歴史的物語を兼ね備えていることから、この限定ボトルはコレクター市場の最上位層に位置すると語った。

競売に出品されるのは目玉商品だけではない。ボナムズによると、Springbank、Glenrothes、Ben Nevisなどスコットランドの蒸留所のウイスキー樽6樽に加え、希少ボトルも幅広く出品される。注目品には「The Macallan Tree of Life in Lalique 46 Year Old, 1979」と「The Macallan Art Is The Flower」があり、2点の予想落札価格の合計は3万5,000～5万ポンド。

競売会社は、この品ぞろえが希少な樽やコレクター向けボトル、その他のウイスキー関連品に対する国際的な需要が続いていることを反映していると説明した。高級スコッチをめぐる競争が従来のウイスキー愛好家にとどまらず、高級品コレクターや投資家にも広がるなか、エディンバラはボナムズの同分野の事業において存在感を高めている。

時計の競売が関連企画にさらなる価値を加える。ボナムズはデヴィッド・ラムゼイ作の時計について、ジェームズ1世の肖像があしらわれた唯一無二の品と説明した。17世紀初頭の著名な時計職人であるラムゼイはスチュアート朝の宮廷に仕えており、その歴史に結びつく品は、時計愛好家と王室ゆかりの品のコレクター双方の関心を集める。

12月の競売日程には、故ウイスキー愛好家でレストラン経営者でもあったマザー氏の所蔵品を対象とする2部構成の「The Derek Mather Collection」の第1弾も含まれる。「Artisan Wishaw – Islay, Independents & Icons」と題された第1部は、11月26日から12月9日までエディンバラで開催される。

ボナムズによると、マザー氏がウィショーのレストラン「The Artisan」のために集めたウイスキーコレクションが中心で、Bruichladdich、Port Charlotte、Octomoreのほか、独立系ボトラーのボトルが充実している。マザー氏はFriends of Bruichladdichの創設メンバーでもあったとボナムズは紹介しており、この点は現代のアイラ島ウイスキーの歴史に関心を持つ買い手の興味を引きそうだ。

単独所有者のウイスキー競売は、複数の出品者による委託品を集めた競売よりも、コレクションの背景が明確になることから、近年存在感を増している。競売会社は、特に著名なセラーや評価の高

い飲食店で保管されていたボトルについて、来歴や保管履歴、コレクター本人の評判を強調することが多い。マザー氏のコレクションについて、ボナムズは個々のボトルの単なる一括出品ではなく、より大きな遺産を受け継ぐ競売の一部として位置づけている。

ボナムズの発表は、市場が依然として明確な階層に分かれていることを示している。一方には、業者や投機的な入札者の関心を集める樽や比較的若いコレクター向けボトルがある。もう一方には、高い希少性を持つボトル、長期熟成のブレンド、蒸留所に関連した体験があり、これらは高級品に近い存在として機能する。「The King's Measure」は後者を明確に狙った品で、予想落札価格は熟成年数だけでなく、唯一無二の存在であることやプレゼンテーションにも支えられている。

両競売はボナムズのエディンバラ部門が担当し、ラムゼイの時計は同社のウェブサイトを通じてオンラインで出品される。2つの競売は、高級スコッチ市場でおなじみの2つのテーマ、希少性の価値と力強い物語の重要性を軸に、同社の12月の競売日程を構成する。